

5 種鶏場におけるひな白痢菌保菌鶏摘発に伴う 防疫対応と清浄化

山城家畜保健衛生所

○一星 暁美 森田 誠

【はじめに】 定期種鶏検査でひな白痢菌（以下SP）保菌鶏を摘発、防疫対応と清浄化・経営再開を支援した概要を報告。【農家概要】 家族経営で種鶏735羽を飼育、ふ卵業務とひな生産を行い、養鶏場へのひな供給の他、自家用ひなの販売、委託ふ化、研究用発育鶏卵の販売等、地域に密着した経営を長年展開。【発生概要】 7月16日、定期種鶏検査で種鶏候補鶏を検査したところ抗体陽性鶏を摘発したため、飼育全羽の検査を実施。合計13羽が抗体陽性。陽性鶏はいずれも臨床症状を認めず。病性鑑定で3羽からSPを分離。なお、鶏舎消毒前に環境中のSP検査を実施したが陰性。【防疫対応】 直ちに抗体陽性鶏の淘汰を行い、移動自粛とふ化中止を指示。当該種鶏場の全羽淘汰と鶏舎消毒を実施。さらに府内一円に渡るひなの譲渡先46戸1,494羽について、各家畜保健衛生所が臨床検査及び抗体検査を実施。9戸126羽が抗体陽性で淘汰。【再開に向けた指導】 関係機関と連携し、畜主に対し以下を指導。①委託ふ化の中止、②ふ化場と種鶏場それぞれの作業動線の改善、③種鶏のオールインオールアウト、④2台のふ卵器の交互使用、⑤鶏舎の徹底消毒。消毒後、環境中のSP陰性を確認し、11月2日種鶏24羽を導入し経営再開。モニタリング検査として死ごもり卵、ふ化後の羽毛・卵殻のSP検査を継続しているが、現在まで全てSP陰性。